

(平成 30 年 5 月試験研究業務月報)

試験研究課題：ICT を活用した京都オリジナルスマート生産技術の開発

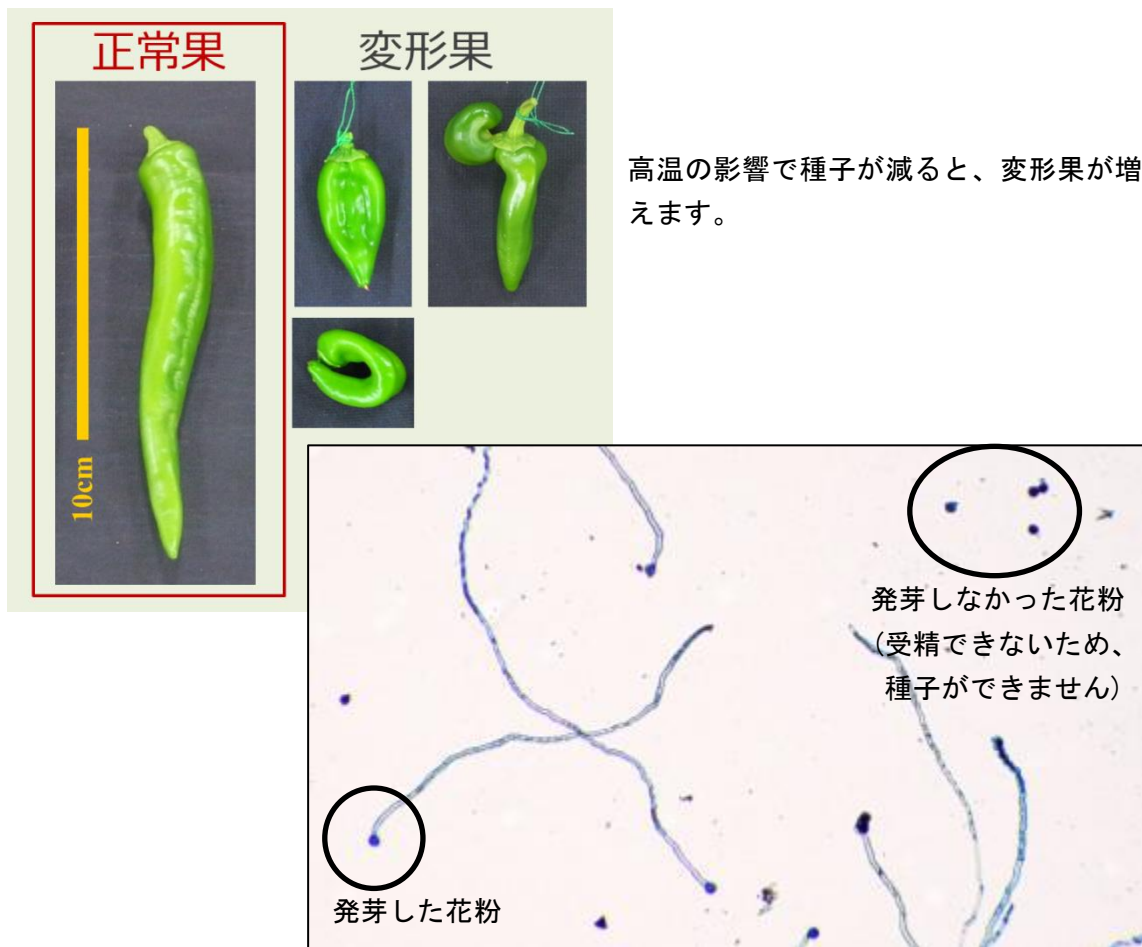
研 究

高温が万願寺トウガラシの変形果発生に及ぼす影響を調査

京都府が生産拡大を進めている万願寺トウガラシは、夏場に出荷できない変形果が増えることが問題となっています。これは、高温により、花粉の発芽率が低下し、種子ができなかった部位が変形するためといわれています。

当センターでは、万願寺トウガラシの変形果を減らすため、ハウス内温度と変形果の発生について調査したところ、昨年度、日中にハウス内の温度が 35 度を超えると変形果が増えることが分かりました。

今年度は、日中に 35℃以上になる時間の長さの変形果発生率の関係を調べています。この結果をもとに、変形果が増えにくくなる温度管理法を生産者に提案します。



高温に遭った花粉の顕微鏡写真

農林センター